

授業科目名： 動物基礎医学特論 A（東京農工大 学）		単位数 2 単位	担当教員名： 教授・准教授・講師
			担当形態： 単独
配当年次： 1 年次後期	授業形態： 講義科目		開講形態： 主指導教員によるゼミナール形式
授業のテーマ及び到達目標： 講義などにより指導を行い、指導教員の研究分野について一定の広がりとし、深さを持つ知識と技術を教授し、博士論文の作成を支援する。			
授業の概要： 獣医学の基盤を担う動物基礎医学に関して、動物基礎医学講座に所属する主指導教員の専門的知識を研究テーマに合わせて講義科目群として設置。			
授業計画： 動物基礎医学講座に所属する指導教員の専門の研究分野について、ゼミナール形式で討議を行う。 以下のとおり、博士論文の研究テーマに直結する研究分野の文献収集・調査方法の指導、研究の進捗状況・成果に対する質疑応答及び博士論文のプロポーザル作成指導を行う。このことを通じて、博士論文に通じる学生の研究テーマに直接的に関与する知識を養う。 <u>①学生の研究テーマに関する内容を講義し、必要に応じて教員はチュートリアル計画を立案する。</u> ②講義や演習を補完するような課題文献を指定し、それを読みディスカッションのうえにレポートにまとめるなどのアドバイスと指導を行う。 ③博士論文作成に必要な情報やデータの収集を指導する。 ④学会発表等での発表に対する準備を指導する。 ⑤研究プロポーザルの作成を指導する。 ⑥博士論文発表会での発表に対する準備を指導する。 ⑦博士論文の作成を指導する。  （柴田 秀史） 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 （渋谷 淳） 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル （渡辺 元） ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス、内分泌攪乱 （小山 哲史） 動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度 （佐々木 一昭）			

薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療 (佐藤 俊幸)
至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動 (鈴木 和彦)
病理、疾患モデル、線維化、腎臓 (永岡 謙太郎)
ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化 (吉田 敏則)
脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血、がん
テキスト：特になし
参考書・参考資料等：特になし
学生に対する評価：受講状況と態度、ならびに講義内容の理解度などにより総合的に評価する。